

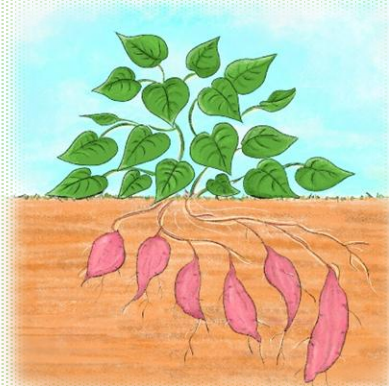
カンショ (サツマイ) のナカジロシタバ防除対策

ナカジロシタバの幼虫は齢期が進んで成熟するほど、農薬に対する抵抗が高まり、防除効果が低下します。このため、**若～中齢の早い時期に薬剤防除することで安定した防除効果が期待できます。**

気象庁の 1 か月予報(7/31 発表)では気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並みと予想され、**発生に適した条件**となっています。これから 9 月中にかけて発生して被害が最も大きくなることから、圃場の発生状況をよく観察し、発生に応じて薬剤防除に努めてください。

ナカジロシタバの発生生態

例年第 3 世代幼虫が 9 月上旬頃から発生し、その後発生量が最も多くなります。



ナカジロシタバは**年 3 回世代**を繰り返します。早い年は 5 月に入って幼虫による食害を認めますが、年によって発生は異なります。

成虫は夜間に飛び回り、葉の裏に卵を産み付けます。ふ化した若齢幼虫は、つる先の若い葉を好んで食害します。中～老齢幼虫になると、昼間は茎葉の陰などにひそみ、夜間に活動して、葉脈だけを残して暴食するようになります。成熟した幼虫は土中にもぐってマユをつくり、その中で蛹になります。



ナカジロシタバ
初期被害

ナカジロシタバ
中齢幼虫



写真：茨城県病害虫防除所

防除対策のポイント

- 防除時期**: 葉に丸い穴が散見される頃から葉の 1/4 くらいが食害された時期（幼虫の若～中齢期）に行います。
- 薬剤防除**: 幼虫が潜んでいることが多い葉裏や株の中にまで、薬液が十分かかるよう丁寧に散布します。

表 1 ナカジロシタバの主な防除薬剤

(令和 8 年 8 月 4 日現在)

薬 剤 名	希 釈 倍 数	使用時期 / 使用回数	分類
アクセルフロアブル	1,000～2,000 倍	収穫前日まで / 3 回以内	22B
オリオン水和剤 40	1,000 倍	収穫前日まで / 5 回以内	1A
ディアナSC	2,500～5,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	5
フェニックス顆粒水和剤	2,000～6,000 倍	収穫前日まで / 2 回以内	28
アグロスリン水和剤	1,000～2,000 倍	収穫 7 日前まで / 5 回以内	3A
グレーシア乳剤	2,000～3,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内	30
トレボン乳剤	1,000 倍	収穫 7 日前まで / 3 回以内	3A
トルネードエースDF	2,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内	22A
ノーモルト乳剤	1,000 倍	収穫 7 日前まで / 2 回以内	15
ミネクトエクストラSC	10,000 倍	収穫 14 日前まで / 2 回以内	15 と 28

注 1) 分類欄には、IRAC コードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

注 2) 分類 15 (ベンゾイル尿素系) の剤は、殺虫効果の発現に比較的時間がかかるため、散布時期を早めにしてください。



- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用してください。
- 宮農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。